



青山ラグー現役通信



昨年度の花園予選

令和 6 年度の花園予選は、唯一の三年生選手である大谷海翔にとって特別な一戦となりました。1 年生時の怪我の影響でこれまで公式戦に出場することができなかった大谷ですが、諦めることなくコツコツとリハビリやトレーニングを積み重ね、ついに花園予選出場を果たしました。強力 FW と好ランナーを擁する新発田南高校との初戦は押し込まれる展開が続きます。新潟もキャプテン大谷を中心に体を張った組織 DF で応戦します。相手の勢いを止めきることができず失点するも、SO 織田島がトライを返し前半を 7 - 3 3 で折り返します。後半も、大谷は気持ちの入ったタックルやセットプレーで奮闘します。全員が最後まで諦めることなくプレーしますが、最終スコア 5 - 5 3 でノーサイドとなりました。二人の三年生、大谷キャプテンと榎田マネージャーのラグビーや勉強に対する真摯な取組は後輩たちへ何よりの手本となりました。



キャプテン N08 大谷海翔の献身的なプレーでセットプレーが安定

今年度のチーム

この 4 月に新入生 9 名（男子選手 7 名、女子マネージャー 2 名）を迎え、総勢 24 名（選手 18 名、女子マネージャー 6 名）で今年度の活動をスタートしています。



鋭いランでトライを量産する FB 丸山泰正。
彼の明るさがチームのムードを盛り上げる。

4 月の地区大会初戦は昨秋の新人戦で不覚をとった万代高校との対戦、暴風雨という悪天候の中、相手キーマンをきっちり抑え 10 - 5 で勝利することができました。この後シード決定戦に臨むはずでしたが、雷のため大会途中で中止となり、1 試合での終了ということになってしまいました。

続く 7 人制大会では、鍛えてきた素早い展開力が発揮されました。特に新発田高校との伝統校対決ではグラウンドを広く使ったスピーディーなラグビーを展開し、トライを量産す

ることができました。7 人制大会では 4 位入賞を果たしています。

迎えた春の大目標・県総体は新潟工業との対戦となりました。県総体では No8 鈴木慶の負傷や、他競技との兼部で参加していた生徒の大会会期が重なる等の事情で、13 人で試合に臨むことになりました。厳しい戦いが予想されましたが、新潟の選手たちの勇敢な戦いぶりはそんな不安を吹き飛ばすものでした。序盤からラッシュアップ DF で相手の大型 FW に対抗、相手が得意とするドライブ



骨は折れても心は折れない
N08 鈴木慶。 空中戦を制圧。

グモールも少ない新潟 FW がきっちりと止めます。攻撃に移るとショートキックとランを組み合わせて効果的にスコアし、前半を 15 - 19 で折り返します。後半は負傷者が出て 12 人での戦いとなり敗戦を喫しましたが、どんな状況でもポジティブに、自分たちの「今できること」にフォーカスした新潟高校らしい試合で、大会をベンチで見ていた 1 年生部員たちも先輩の姿に感激していた様子でした。



驚異的なワークレートを誇る
H0 笹川圭斗。 タックルの鬼。

戦績

令和 6 年度 花園予選

1 回戦 新潟・巻 7 - 5 3 新発田南

令和 6 年度 NHK 杯 (B グループ)

1 回戦 新潟 5 5 - 5 新潟商業

B 決勝 新潟 2 4 - 2 6 新潟合同

※新潟合同 (万代・巻・敬和)

令和 7 年度 春季地区大会

1 回戦 新潟 10 - 5 万代

シード決定戦は落雷のため中止

令和 7 年度 7 人制全国大会県予選

1 回戦 新潟 2 4 - 5 新発田

準決勝 新潟 0 - 4 8 北越

3 位決定戦

新潟 10 - 3 1 新発田南

令和 7 年度 新潟県総合体育大会

1 回戦 新潟 15 - 5 1 新潟工業

R7 現役チーム体制

主 将 金澤 心平（3年 CTB）
副 将 織田島 陽人（3年 SO）
監 督 笹川 敬史
顧 問 勝 雅史
顧 問 高野 和人
部員数 24名

（3年8名、2年7名、1年9名）



強烈なリーダーシップと愛されキャラ
を併せ持つ主将 CTB 金澤心平。



ゲームメーカー SO 織田島陽人。
その判断がチームの命運を握る。

今後の予定

花園予選

- ①9月23日（火祝）新発田カルチャー ②10月13日（月祝）新発田カルチャー
③10月19日（日）未定 ④10月25日（土）未定 ⑤11月1日（土）ビッグスワン
NHK 杯
① 11月8日（土）新発田カルチャー ②11月15日（土）未定
③11月22日（土）新発田カルチャー

※大会会場、日程は変更になる可能性があります。協会 HP などを確認してください

いわき合宿：8月8日（金）～10日（日）に福島県いわき市の鮫川グラウンドで久しぶりの
県外遠征を実施します。来年度からは長野県菅平合宿を再開する予定です。

OB 情報

4月に秩父宮ラグビー場で行われた東日本大学セブンズ大会に北海道大学から松村航希君
（大2年）、今村葵生君（大2年）の二人が出場しました。帝京大学ははじめトップレベルのチ
ームを相手に奮闘している姿を見て誇らしく思いました。その他にも新大医学部や防衛大学校
など、各地で卒業生が活躍しています。

新監督 自己紹介

10年間監督を務められた谷川永一郎先生に代わり、今年度4月に着任しました笹川敬史と
申します。多くの方々のおかげで念願だった新潟高校に勤務することができ、感謝の気持ちを
胸に毎日グラウンドで選手たちとともに楯円球を追いかけています。

私自身、ラグビーという素晴らしい競技に心と身体を育ててもらい、ラグビーを通じて出会
った恩師や仲間たちとの繋がりで人生を豊かにしてもらいました。その始まりが新潟高校ラグ
ビー部です。

現役部員たちには、仲間と思い切りラグビーに取り組み、毎日を全力で ENJOY してほしい
と願っています。一般的には、「ENJOY＝楽しむ」と訳しがちですが、我々は「堪能する、味
わい尽くす」と解釈しています。楽なこと、気持ちいいことだけやってもラグビーを堪能
することなどできません。しんどいこと、怖いことや痛いこと、時には自分の弱さと向き合
うこともラグビーの一部、そんな日々を繰り返してようやくたどり着いた花園の切符をかけた大
一番、後半のヒリヒリする場面でこそ、高校ラグビーを真に ENJOY できるというものです。

新潟高校ラグビー部が目指すのは、人生を ENJOY しグローバル社会に貢献できるタフな人
材を輩出すること。そのために生徒とともに前に進んでいきます。青山ラグークラブの皆様、
今後ともご協力ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



今年度作成したオリジナルボール。チームに対するプライドと愛情を持ってプレーしています。

【文責 笹川 敬史 108回卒】